

令和4年度第1回あわらし郷土歴史資料館運営協議会会議録

日 時：令和4年5月24日（火）

午後1時00分から

場 所：金津本陣 IKOSSA 3階

市民文化研修センター研修室1

（日程）

1. 教育長 あいさつ

2. 議題

（1）あわらし郷土歴史資料館運営協議会委員長の選任について

（2）令和4年度郷土歴史資料館事業の見通しについて

（3）年報の作成について

3. 報告

（1）令和3年度郷土歴史資料館事業報告について

4. その他

（出席委員）

水野 和雄 吉田 純一 長野 栄俊 宇都宮 高栄
能美 進 荒木 秀子 寺井 玲子

（事務局）

あわらし市教育長 甲斐 和浩 文化学習課長 早見 孝枝
郷土歴史資料館館長 平井 俊宏 郷土歴史資料館副館長 九千房 英之
郷土歴史資料館 角 衣利奈

【教育長 あいさつ】

【議題1】あわらし郷土歴史資料館運営協議会委員長の選任について

事務局：委員長の選出を行う。

委 員：事務局一任でお願いします。

事務局：水野先生にお願いしてもよろしいか。

委 員：異議なし。

事務局：それでは水野先生に委員長をお願いします。委員長から副委員長の指名をお願いします。

委員長：吉田先生にお願いしたい。

事務局：吉田先生に副委員長をお願いする。以降の進行は、水野委員長からお願いしする。

【議題2】令和4年度郷土歴史資料館事業の見通しについて

(事務局説明)

委員長：何か質問や意見はあるか。

委員：デジタルアーカイブはどれくらい市役所と連携して進めているのか。

事務局：政策広報課と協議をしながら進めている。文化財活用計画に入れ国庫補助金を取ってから構築する予定となっている。

委員：講座と資料館講座はどう違うのか。

事務局：講座は企画展の関連講座を指している。

委員：あわらの古墳見学会を企画展関連として繋げた方がよいのでは。

事務局：企画展開催の夏は古墳の見学向かないので、秋の開催とした。そのため、期間が空いてしまい関連に位置付けることができなかった。

委員長：横山古墳群の再検討という講演会があるがどのような内容なのか。国の指定にする方向は考えているのか。

事務局：昨年度踏査したことを踏まえ、古墳の編年を中心に話すのではないかと考えている。講演会や展示をきっかけに市民の関心を高め、国指定につなげていきたいと思う。

委員長：赤色レーダー調査や研究成果をもとに国指定にできるはずなので、今後市の課題としてほしい。

委員：新幹線開業に向けて県全体の統一企画はあるのか。

事務局：今のところ予定されていない。

委員長：過去の入館者の推移をみると令和元年度までは5000人くらいだった。新幹線開業に向けた事業に取り組み、年間5000人から7000人の来館者数を目標に定めてほしい。

【議題3】年報の作成について

(事務局説明)

委員長：何か質問や意見はあるか。

委員：講演会の概要やイベントの意見等を掲載し内容を充実させてはどうか。

事務局：初期のころを中心に、録音を取っていない過去の事業は概要を書けないものがあるが、令和2年度以降の講演会や講座の資料については新しく付け加えていきたいと考えている。

委員：年俵をデジタル化すれば、内容を増やしても印刷代はかからない。年報をデジタル化するための予算を取った方がよいのではないか。しかし、一方で冊子でしかアクセスできない人の配慮は欠かせないため、出力した資料を一定部数図書館等に置いたらどうだろうか。

事務局：検討する。

委員：資料利用の欄で、個人の名前と利用内容が掲載しているが、当事者は名前や研究内容を掲載されたくない場合があるため、検討いただければと思う。

事務局：そのようにしていく。

委員長：学芸員が5人いるが、どういう分野に興味や関心があり、研究をしているのか知ら

せるため、紀要を設けてほしい。

事務局：検討する。

委員：その年に指定を受けた市の文化財についてももう少し詳しい内容や写真を入れたらどうか。

事務局：詳細を入れたい。登録有形文化財の解除をされた文化財は掲載した方がよろしいか。

委員長：掲載して構わないと思う。

【報告1】令和3年度郷土歴史資料館事業報告について
(事務局説明)

委員：テーマ展「ちょっと昔の米作りと道具たち」の観覧数が多いのはなぜか。

事務局：他の展示に比べて期間が長いということや、聞き取り調査の協力者やテレビなどに取り上げられたことが影響していると考えられる。

委員：テレビなどのメディアを活用したらどうか。

事務局：プレスリリースをしているが取材に来てくれるかはわからない。

委員：プレスリリースに加え、直接メディア担当者へ連絡してお願いした方がいいのではないか。

事務局：そのようにする。

委員：米作りの展示は昔懐かしさを感じたが、なぜ道具が移り変わっていたのか時代背景を知りたいと思った。

事務局：学術面として重要だが一般向けではない。

委員：紀要で報告してもらえればと思う。

事務局：今後の課題としたい。

委員長：大人が昔経験した物や親が使っていた物は郷愁を感じるが、学生たちは何に使う道具は分からないので、いい資料は後世のために保存して残していかなければならない。そのためにも資料の購入費は予算化してほしい。

事務局：保存用の他に出前授業で使う体験用として同じ資料を収集する場合がある。予算化については検討します。

委員長：他にないようなので、これで議事を終了とする。